

# 裏路地探険

うだつ、越屋根、造り酒屋の煙突…  
 旧家が並ぶ閑静な町並みは  
 作家・山田風太郎が育った懐かしの風景

## 山田風太郎の故郷を歩く／養父市関宮

関宮という地名の発祥は1350年以上前までさかのぼる。その昔、西国で悪病が流行した際、天皇は都に病が入らないようこの地に宮を建て素戔嗚命を祭った。その功あつて病をせき止めたので、関宮という宮号になったのが今の関神社だそう。

関神社の境内は、その威厳を示すように大木が生い茂る。ひと際高くそびえるのは市の天然記念物に指定されているカヤの木。明治時代の道路工事で幹の一部が地中に埋まったというが、樹高は30メートルに達する勢いだ。本殿の横の順路に沿って、学問・商売・安産などの神を祭った小宮が並



酒屋の煙突がのぞくどかな風景



記念館には自筆原稿や愛用品のほか、貴重な初版本や映画ポスターを収蔵。昨秋は「甲賀忍法帖」を映画化した「忍-SHINOBI」を全国公開と同時に上映し、たくさんの方が訪れたそう。



「風太郎の会」会長の小谷稔さん。風太郎と同じ旧関宮小学校を卒業。風太郎は秀才との呼び声が高かったそう。



「風太郎の会」副会長の有本俱子さん。出石藩・仙石家の流れをくむ風太郎の家系など独自に研究されたことも、記念館に展示している。

ぶ。古くから村人の信仰が篤く、いつしかそれらの宮が増えつたという。

作家の故山田風太郎も幼い頃の神社を訪れることがあったらうか。祭りの時には境内で芝居が披露されることもあり、大人も子どもも楽しみにしていたそう。地元・但馬でも意外と知られていないが、養父市関宮は忍法帖シリーズなどを執筆した山田風太郎（本名・山田誠也）の出身地。幼少期の十数年を過ごした生家を初め、ゆかりの建物が点在している。

平成15年にオープンした山田風太郎記念館は、彼の通った旧関宮小学校の跡地に建つ。当時運動場の隅に植えられたというイチヨウの木が今は大きく成長し、記念館を見下ろしている。

風太郎の家までは約200メートル。幾度となく往来した通学路を辿ってみる。道の脇にはきれいに積み上げられた石堀と細く延びる水路。造り酒屋の煙突がのぞく風景にとけ込む。生家の隣は明治創業の銀海酒造だ。

懐かしい旧家の並びには伝統的な越屋根造が見られる。かつてこの辺りには養蚕農家が多かったそう。うだ。うだつの上がつた格式高い生家は、風太郎が5歳の頃に江戸時代の陣屋跡から移築された。（実際の生家はその向かいに建っていた）山田家は代々続く医者の家系で村の名家だったという。ほとんど消えかかっているが、玄関には今も「山田（医）院」と書かれた当時の表札が残っている。

晩年、「子どもの頃をよく思い出す」とインタビューで語っていた風太郎。幼い頃に両親を亡くし、故郷に複雑な思いを抱いていたはずだが、「何もなところなのによく飽きもせず遊んだ」と懐かしく振り返っていた。

当時とほとんど変わらない姿をとどめる建物や通り、そして豊かな自然。今も子どもたちの絶好の遊び場が隠れている。

●裏路地探険隊員募集  
 平成18年10月7日(土)  
 「城崎・楽々浦を歩く」豊岡市城崎町  
 \*実施日の10日前までに、18ページ掲載のT2編集部へ、住所・氏名・年齢・電話番号・「裏路地参加希望」とお書きの上、ハガキでお申し込みください。開催は午前中、現地集合・現地解散となります。申込締切日後、案内を参加ご希望の方へ送付致します。

今では珍しくなった越屋根が何件も見られる

隣り合う風太郎の生家(左)と銀海酒造(右)は昔のままの外観をとどめる

大正時代に建てられた木造校舎の一部が残っている

山田風太郎記念館

旧関宮小学校跡地 記念館の駐車場は元々運動場だった

関宮地域局

関宮マリヤス

国道9号線

八木川

平成15年に廃校となった関宮小学校

風太郎が碑文を寄せた旧関宮小学校の創立百周年記念碑。「記念館を訪れた人の中にはこの碑まで足を運ぶ人が度々あります」と風太郎の会事務局長の有本正彦さんの説明。

本殿と拝殿の彫刻は、大阪城や四天王寺にも作品を残す柏原の中井権次橋正貞によるもの

関神社に並ぶ小宮。但馬牛を祭ったものも。

関神社のカヤの木の樹齢は推定500年

うだつに虫籠窓の風太郎の生家

八木谷川 かじかが棲むという清流